

教職支援センターNEWS つなぐ 第2号

令和4年8月発行 高崎健康福祉大学 教職支援センター

はばたけ 明日へ!! 教職支援センターは、入学から赴任までを親身でサポート

高崎健康福祉大学教職支援センターは開設されて令和4年度で9年目を迎え、本学学生への支援の内容や質共に確かなものとして確立できたと考えております。教育職・保育職を目指す3学科(子ども教育、栄養、看護)の学生に対して、入学時からの学修支援や各種ガイダンスの実施、3年次から採用試験対策講座等の開始、そして、4年次になると出願支援や面接・模擬授業等の採用試験サポートや着任に向けての講座の実施等を行う体制が整いました。学生の対応には校長先生や園長先生を務めた、専門性の高い本センター教職指導主事の4名の先生方が、丁寧できめ細やかな対応を常に心がけて、親身に支援を行っております。

特に、教育職・保育職に立ち向かう4年生が、社会人としての新たな環境を目前に控え、最も不安と対峙する1月～3月に「赴任前講座」と銘打って、不安の解消に加え、今後身につけていかなくてはならない、教育・保育の校園における自己管理や保険、税金、就労等についての教養育成の充実が形となって参りました。令和3年度も関係学科のご支援もうけつつ、学生が4月から胸を張って笑顔で赴任校の職員室で着任の挨拶が出来るサポートが出来ました。下の写真は「赴任前講座」の全プログラムが終了した後に、教育・保育の赴任先毎に撮影した集合写真です。どの学生の表情にも、明日に向けての夢と希望が満ちあふれているように感じます。令和4年度も、明日に向かって笑顔で羽ばたける卒業生の育成を目指して支援を積み上げて参りたいと思っております。

教職支援センター長 栗原 幸正



教職支援センター令和4年度スタッフの紹介



- 教職支援センター
- センター長 栗原幸正
 - 副センター長 野田敦史
 - 専任教員 北村陽
 - 教職指導主事(保育職) 伴内弘美・田胡敏子
 - 教職指導主事(教育職) 平林茂・三村国宏
 - 専任事務職員 北村杏子

教職支援センターのスタッフも本学の「自利利他」の理念に沿って、学生さんの喜びは私たちの喜び…、いつもそんな気持ちで接しています!

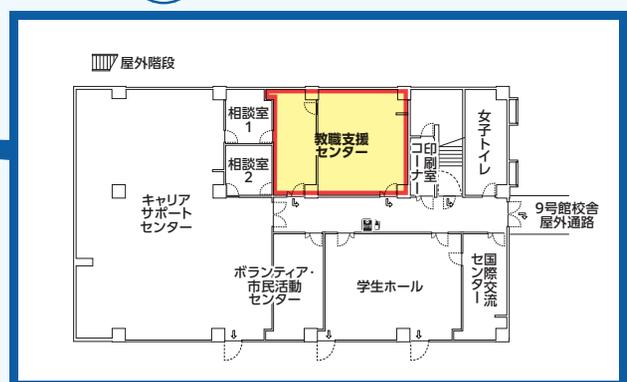
教職支援センター案内図

教職支援センターは9号館の1階にあります。

お問い合わせ

027-352-0080

uhw-kyosyoku@takasaki-u.ac.jp





センターでは次のような事業を行っています



学生支援事業① 進路相談・各種面談・採用試験サポートの実施

小学校の先生と中学校の先生…自分はどちらを目指すか迷っている、幼稚園と保育園…自分にはどちらが向いているのだろう?そんな悩みを持つ方々にも、スタッフ一人ひとりが優しく丁寧に応じ、進路に沿った学修や面接・模擬授業・模擬保育のサポートをしています!



教職課程の自己点検・評価事業

文部科学省が推進する大学の教職課程の自己点検・評価実施のための事務局として、本学の教職課程の点検や評価を実施し、本学の教職課程の質の向上に取り組んでいます!

学生支援事業② 予備校が実施する採用試験対策講座や模擬試験への参加支援

採用試験突破に向け、受講者全員、真剣に臨んでいます!



教職履修カルテに関する先進的な取り組み

教職課程に必須とされる履修カルテについては、他大学ではあまり例のない独自のクラウドシステムを活用し、学生や教員の利便性向上と情報の一括管理を図るなど、先進的な取り組みを行っています!

教員免許状一括申請・保育士登録関連事業

卒業年次生の便宜を図るため、各学生からの申込書類を一括して関係機関に申請する業務を行っています。そのため教員免許状については、学位記授与式当日に受け取ることができます!



地域校園及び教育機関支援事業

社会貢献の一環で、センター所属の教職指導主事が地域校園の研究会や授業研究をサポートし、地域の教育・保育の質の向上を目指しています!

各種有償ボランティア窓口事業

高崎市内の小学校を中心に、子どもたちの支援を目的とした各種有償教育ボランティアの紹介・斡旋を行っています。参加した学生は、子どもたちとのふれあいを通して教育職・保育職に対する自らの資質を確実に高めています!



実習に関する調整

3学科に及ぶ教職課程履修者の各種実習先の実態等を踏まえ、学生が無理なく円滑に実習ができるよう、実習期間の調整業務等も行っています!



「教育職・保育職等で働く！」

という夢を実現した

健大卒業生からの メッセージ

Message
From graduates

群馬県(公立)保育園

保育士 平形 菜々子さん (令和3年度卒)



私は、実習や様々な講義を機に公立の幼稚園や保育所に勤めたいという思いを抱きました。その夢を叶えるため、毎日小さな努力を積み重ねることを大切にしました。

しかし、一人ではこの夢を叶えられなかったと思います。同じ目標を持った仲間と一緒に勉強をしたり、教職支援センターの先生方に相談したりするなど、多くの人の支えがあったからこそ叶えられたと思います。大学で学んだ事を生かし、子どもや保護者から信頼される保育者になれるよう努力していきます。

健大は同じ夢を持っている仲間が多くいますし、それを支えてくれる先生もたくさんいます。自分から積極的に行動すれば、ここで頑張りたいと思える場所がきっと見つかると思います。感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって頑張ってください。

群馬県(公立)保育園

保育士 吉井 亜里彩さん (令和3年度卒)



私は4年生の5月くらいまで、将来どのような方向に進もうか悩んでいました。大学での学習や実習で様々な選択肢があることやそれぞれの良さを知り、迷っていましたが、教職支援センターをはじめとする先生方が親身になって相談にのって下さり、よく考えて決めることができました。

目標が決まってからは、友達と一緒に試験の勉強を行い、センターの先生方にご指導いただき、面接と小論文の練習を繰り返し行いました。人前で話すのは苦手でしたが、練習が自信に繋がり、落ち着いて自分の考えを伝えることができるようになったと思います。

私が周囲の人に支えられたように、私も子どもや保護者の方の気持ちに寄り添っていける保育者になれるように頑張っていきたいと思います。

群馬県(私立)こども園

保育教諭 大川 真優佳さん (令和3年度卒)



私が就職先を決めるにあたって大切にしていたのが、園に通う子どもたちだけでなく保育者の方々も生き生きとしている点でした。そのため、群馬県の認定こども園や幼稚園、保育所が集まる合同説明会で情報収集を行い、気になった複数の園に見学に行き、より自分に合っていると感じる園を選びました。教職支援センターの先生方には、就職希望先の決定や就職試験の面接練習、履歴書添削など、たくさんお世話になりました。面接練習をしておいたことで本番は落ち着いて臨むことができました。準備をしすぎて損をすることはありません。妥協せず、自分の納得できる就職先を見つけられるよう、応援しています。子どもたちと向き合い、共に成長しあえるような保育者になれるように努力していきたいです。

群馬県(私立)こども園

保育教諭 須田 遥さん (令和3年度卒)



私は、幼い頃から保育士になるという夢を持ち続けていました。就職に際して周囲からは小学校教諭の道を勧められることもありましたが、自分の本当にやりたいことややりたい将来像を一番大切に、最終的に私立のこども園に決めました。教職支援センターの先生方には、公立・私立の両方を視野に入れてたくさん相談し、その都度、今やるべき事をアドバイスして頂きました。私は良くも悪くも、自分の熱中したものや良いと思ったことに一直線に突き進むところがあるのですが、先生方がいくつもの園の説明会や見学に行ってみよう勧めくださり、多角的な視点から園を比較することで、特色や気になる点を理解することができました。これからも自分で選んだ場所で、自分の持ち味を生かした保育者になれるよう、精一杯努力します。

群馬県 児童養護施設

保育士 青木 優花さん (令和3年度卒)



私はどの職種に就こうかギリギリまで悩んでいたため、試験勉強はどこを受けても大丈夫のように、専門的な問題や一般常識の問題を一通り勉強しました。4年生になり、幼稚園の説明会参加や施設への見学を繰り返すうちに、私は子ども一人ひとりと深く関わる仕事がしたいという気持ちが強くなり、児童養護施設に就職しようと決めました。これから子どもと関わっていく上で、真摯に子どもと向き合うことや笑顔で接することを大事にして、子どもに信頼される保育者を目指したいと思います。子どもは些細な変化に敏感なので、子どもが安心して日々を過ごせるように他の職員の皆さんと協力して、子どもにとって、より良い環境を作れるように頑張っていきます。

皆さんが自分に合った職を見つけられるように応援しています。

新潟市(公立)小学校

教諭 齋藤 蓮さん (令和3年度卒)



私は、高校生の途中から小学校の先生になりたいという夢を抱くようになり、大学へ入学しました。講義や教育実習、教職支援センターの先生方との面談を通して、その夢が小学校の先生になるという明確な「目標」へと変化していきました。しかし、一度は決めたものの、本当に自分に向いているのか、この選択が正しいのかという不安や葛藤も多くありました。そのたびに、自分自身の心の根っここの部分をもう一度考えたり、先生方や友達に相談したりして、結果的にそのことが試験勉強へのモチベーションにもなりました。今までは、自分の力だけでなんとかしようと思っていましたが、周りの人たちに助けを求めることができる勇気も必要であり、その大切さを学ぶことができました。

皆さんも周りの仲間とともに夢や目標に向かって頑張ってください。

群馬県(公立)小学校(中学英語合格)

教諭 佐藤 春奈さん (令和3年度卒)



教員採用試験に向けた勉強のスタートが人一倍遅かった私を、同じく教員を目指す健大の仲間が引っぱって、一緒に勉強してくれたため、最後まで夢をかなえるために努力することができました。教職支援センターの先生方が開いてくださった教員採用試験対策講座では、教職教養や教育時事などをわかりやすくまとめてくださったり、様々な校種の教員を目指す学生が来て一生懸命勉強している姿を見たりして「私も頑張らなきゃ」とやる気を出すきっかけを作ってくれたりもしました。

4月からは教員として学校で働くこととなります。まだまだ分からないことだらけの未熟な私ですが、この大学で学んだことを基本に、精一杯子どもたちと関わり、コミュニケーションをたくさん取れる教員になりたいと思います。

埼玉県(公立)特別支援学校

教諭 神保 七海さん (令和3年度卒)



私が教員になりたいと決意したのは大学3年の教育実習が終わった冬頃でした。大学では周りの友達はまだ本格的に教採の勉強を始めている時期だったので、今からでも間に合うのかとても不安でした。しかし、教職支援センターの先生方がいつでも親身になって不安や悩みを聞いてくださったり、小論文の添削や面接対策といった勉強面でも手厚くサポートしてくださったりしました。同じ夢に向かう友達の存在に支えられるだけではなく、どんなときでも助けてくれる先生方がいなければ採用試験は乗り越えられなかったと思います。これらの経験を活かし、私自身も子どもたちの気持ちに寄り添うことや、長所を褒めて自信をつけさせることなどを意識して、子どもたちと共に学び、高め合える教員になりたいです。

群馬県(公立)小学校

養護教諭 本郷 郁香さん (令和2年度卒)



私が養護教諭を目指したきっかけは、小学校の養護の先生に憧れを抱いたことです。自分もその先生のように子どもたちに優しく寄り添い励ませる存在になりたいと思い、養護教諭課程を選択しました。率直に言って看護師課程と養護教諭課程の両立は難しいと感じました。しかし、看護学科の仲間はもちろん、教職を目指す仲間と共に、励まし合いながら毎日試験勉強や面接練習に取り組み、乗り越えることができました。また、養護教諭課程や教職支援センターの先生方には、実践的で現場をイメージしやすいご指導をいただいたり、合格に向けてサポートしていただいたりして、夢を叶えることができました。大学での学びを活かして、いつでも子どものことを第一に考え寄り添える養護教諭でありたいと思います。

高崎市(公立)小学校

管理栄養士 関 菜々子さん (令和3年度卒)



私は、小学生の頃の食育の授業から学校で働く栄養士になりたいと思っていました。採用試験の倍率が高いことや不合格のことを考えると不安が大きく、諦めかけたこともありましたが。

しかし、教育実習での児童たちが給食を笑顔で食べている姿や給食の時間を楽しみにしている姿から子どもたちに近い存在として学校給食に携わりたいという思いから、自校方式給食に力を入れている高崎市を受験しました。採用試験を受験するにあたって教職支援センターの先生方に面接練習をしていただいたり、様々な助言をしていただいたりしました。私が合格できたのは、周りの人たちの支えがあったからだと思います。この感謝の気持ちを忘れずに、これから高崎市で働いていきたいです。そして、給食を通して食べるのが好きな子どもたちを増やしていきたいです。